

第11回海洋工学シンポジウム

テーマ「海洋研究におけるデータアシミュレーション」

—シミュレーションの新たな展開—

主催：海洋工学コンファレンス

代表者：杉森康宏

共催：日本海洋学会，日本気象学会，日本水産学会，
航水研，海洋調査技術学会，日本機械学会，日
本造船学会

協賛：応用物理学会

日時：1991年10月14日（月） 10：00～17：00

場所：東京大学海洋研究所（中野区南台1-15-1）大講
義室

（JR新宿駅より都バス18・19番永福町・中野
車庫方面東大附属前下車）

参加費：要旨集 1000円（学生 500円）

コンピーナ：遠藤昌宏（気象研）久保田雅久（東海大）
中田喜三郎（公資研）

プログラム：

[10：00—10：10]

趣旨説明 久保田雅久（東海大海洋）

[10：10—12：00] 【座長 久保田雅久】

1. データアシミュレーションとは 住 明正（東大理）
2. 気象庁予報モデルでのデータアシミュレーション
野村 厚（気象庁）

[12：00—13：20] Lunch Break

[13：20—14：50] 【座長 中田喜三郎】

3. 生態系モデルでのデータアシミュレーション

中田喜三郎（公資研），岸 道郎（東大海洋研）
石坂丞二（公資研）

4. 沿岸海況予測のためのデータアシミュレーション

柳 哲雄（愛媛大工）

[15：00—16：30] 【座長 遠藤昌宏】

5. データアシミュレーションのための海洋データセット
の作成—表層海洋大循環— 水野恵介（遠水研）

6. 気候監視のための海洋データ同化システム

木本昌秀（気象庁），吉川郁夫（気象庁）

7. 海洋におけるデータアシミュレーションの現状

久保田雅久（東海大海洋）

[16：30—17：00] 総合討論 司会 遠藤昌宏

連絡先：〒424 清水市折戸 3-20-1

東海大学海洋学部海洋工学科内

海洋工学コンファレンス事務局

千賀 康弘

Phone 0543-34-0411 Ext. 3424

FAX 0543-35-4155

編集後記：今年の8月は、沖縄地方を除いて涼しい日が続きました。昨年は「観測史上最高の」月平均気温が続出したことを考えると、「低温」が話題になったのはずいぶん久しぶりという感じがします。この涼しい天候の御陰で、電力需要が供給を上回るという危機的な事態は避けられました。とは言え、9月になると暑さが戻って来ましたし、世界的に見るとヨーロッパ・北米・東シベリアなど平年より気温が高かった地域のほうがずっと広く、地球の温暖化は着実に進んでいるように感じられます。

今年6月に噴火したピナトッポ火山の噴煙は成層圏に達し、エーロゾルになって地球を取り巻いたことが観測

されています。その影響が気候にどう現われてくるのか。あるいは、現在熱帯太平洋で進行中のエルニーニョ現象がどうなるのか、南極のオゾンホールは今年は拡大するのかどうか、など地球環境に関する興味深い話題は多々あります。これらの話題に関する情報をできるだけ早く会員の皆様にお知らせすることも「天気」の役割と考えます。編集委員会では「NEWS」欄を拡充して気候情報を掲載する予定です。ただし、締切との関係で、他のメディアに比べると数ヶ月遅れてしまうことは避けられません。興味深いデータ等お持ちの方は、できるだけ早く編集委員会までお知らせ下さい。

（山田真吾）